

中国の記事から (WTO/FTA・貿易・安全 ・その他)

2006年3月31日号

目次

◎中央政府、今年は農業総合開発に105億元拠出

【経済日報 2006年03月22日】

◎2月、淮河流域の水質合格率は28%にとどまる

【経済日報 2006年03月22日】

◎吉林エタノールメーカー、年産30万トンの装置が国家環境保護総局の検収パス

【中国化工報 2006年03月23日】

◎山東省農業科学院、落花生廃物原料のディーゼル燃料開発に成功

【中国化工報 2006年03月27日】

◎河南天冠集団、わらなどのエタノール転化率18%に向上

【中国化工報 2006年03月30日】

◎中央政府、今年は農業総合開発に105億元拠出

【経済日報 2006年03月22日】

財政部の廖曉軍・部長は、中央政府は2006年、農業総合開発資金として105億元を拠出することを明らかにした。2005年より8億元増加となる。このうち収穫量が少ない農地の改造、灌漑（かんがい）節水改造などへの投資額は62億7000万元、高級食糧産業事業への投資は20億元に達する予定である。

また、水利部のテキ浩輝・副部長は、先ごろ、2005年の農村部水利建設資金は65億元、ダム287カ所の整備プロジェクト、節水改造プロジェクト295件などを実施したことを明らかにした。2005年9月から2006年2月にかけて、全国の農地水利整備への投資額は445億元に達し、灌漑設備を整備・改造した農地の面積は940万ムー（1ムーは6.6アール）、収穫量が少ない農地の改造面積は1819万ムー、整備した河川・土壌の流失面積は2万4000平方キロメートルに達して

いる。

◎2月、淮河流域の水質合格率は28%にとどまる

【経済日報 2006年03月22日】

淮河流域水環境観測センターは、2006年2月13～19日、淮河流域の省境46カ所と、淮河主流、大運河、潁河など主要河川の観測地点43カ所で行った水質検査の結果を発表し、2006年2月の省境46カ所の水質合格率は、1月より9.5ポイント減の28.3%となり、汚染が進んでいることを明らかにした。

「地表水環境品質基準」(GB3838-2002)に基づく検査では省境46カ所のうち、水質が第3類(生活用水として使用可)基準をクリアしたのは17.4%、第4類(工業用水として使用可)は10.9%、第5類(農業用水として使用可)は10.9%、超5類(汚染された水)は60.8%となった。

河南省、安徽省、江蘇省、山東省の省境で行った検査では総合水質合格率は24%であった。河南省から安徽省に流れ込む黒茨河、山東省から江蘇省に流れ込む武河、沙溝河、黄泥溝などの水質汚染が進んでいる。

淮河主流の観測地点13カ所での検査では、水質が第3類基準をクリアしたのは1カ所にとどまり、大運河の観測地点22カ所のうち、水質が第3類基準をクリアしたのは9カ所となった。

◎吉林エタノールメーカー、年産30万トンの装置が国家環境保護総局の検収パス

【中国化工報 2006年03月23日】

吉林省のエタノールメーカー、吉林燃料乙醇有限公司の初めての燃焼用エタノール装置(年産30万トン)が、国家環境保護総局の環境検収をパスした。今回、同会社は同装置のほか、酒かすを利用したタンパク飼料生産装置(28万トン)、コーン油生産装置(2万2500トン)なども建設した。一連の装置への投資額は20億4300万ドル、このうち環境保護のために1億4000万ドルを投じている。

◎山東省農業科学院、落花生廃物原料のディーゼル燃料開発に成功

【中国化工報 2006年03月27日】

山東省農業科学院落花生研究所は、搾油作物の搾りかす、廃油をバイオディーゼル燃料の原料とすることに成功したことを明らかにした。落花生油生産時などに発生する落花生の廃物を原料に1日30トンのバイオディーゼル燃料生産に成功した。同燃料の市場価格は一般的ディーゼル燃料の価格5000元(1トン)を大幅に下回る3500元(1トン)と価格競争力もある。

同燃料は「0号軽油」と同程度の品質で、米国、ドイツのバイオディーゼル燃料基準もクリア。一般的軽油と比較して排ガス中の有害物質が50%少ないのも特長。間もなく山東省チンタオ市の各給油所に配備され路線バス、フェリーなどで使用される予定となっている。

◎河南天冠集団、わらなどのエタノール転化率18%に向上

【中国化工報 2006年03月30日】

アルコール燃料メーカー、河南天冠集団は27日、わらなどの原料のエタノールへの転化率は18%に達したと発表した。同集団は、年産300トンの試験生産ラインを建設している。現在、全国でエタノール燃料はほとんどが糧食を原料とするものである。

しかし、エタノール燃料の需要が拡大していることから糧食以外の原料を使用するエタノール燃料生産技術の研究が進められている。河南天冠集団は、近年、山東大学、清華大学とも提携しエタノール燃料の産業化に力を入れている。現在わらなどの原料6トンからエタノール燃料1トンを生産することが可能で、原料利用率は大幅に向上した。河南天冠集団は、年内に年産1000トン級のわらなどを原料とするアルコール燃料生産ライン建設を計画している。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により
翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て
独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。